

本紙は右記の店にもあります

国民体育大会 兵庫県成年男子準決勝進出

第42回国民体育大会秋季大会サッカー競技は10月26日から30日まで、沖縄県で開催された。近畿地区大会少年の部1位で本大会に出場した県高校選抜チームは、那覇市立金城中学校運動場での第1戦に鹿児島県代表を3対1と破り、県立奥武山競技場で2回戦を山口県代表と戦ったが、2対1と惜敗した。

一方、近畿地区予選において滋賀県を降だして出場権を獲得した成年の部県代表は、沖縄市北中城村、県総合運動公園蹴球場で1回戦長崎、2回戦埼玉、準々決勝静岡と強豪相手に勝ち進み、準決勝に進出した。

準決勝前半、秋田県代表に3点を奪われて苦戦を強いられた。後半小丸のパスを笠谷が決めて一矢を報いたが、ばん回することはできなかった。

10月25日の開会式から30日の3位決定戦まで宿泊でお世話になった地元、宮里の方々の応援はたいへん力強く、親切で毎試合横断幕(写真)や旗を持って大勢で声援してくださり、選手、役員とも心から感謝、感激した。

成年男子 (結果)

- ▷1回戦(26日) 兵庫 1 (1-0) 0 長崎
- ▷2回戦(27日) 兵庫 1 (1-0) 0 埼玉
- ▷準々決勝(28日) 兵庫 2 (1-1) 1 静岡
- ▷準決勝(29日) 兵庫 1 (0-3) 4 秋田
- ▷3位決定戦(30日) 兵庫 1 (0-2) 2 鳥取

▶地元の熱烈な応援を受けた



▶国民体育大会の部準決勝進出の県選抜



兵庫県協会 役員親睦試合

9月13日神戸中央球技場において兵庫県サッカー協会傘下の県支部協会役員親睦サッカー大会が開催された。

参加したのは尼崎、西宮、神戸、明石、淡路、北播、竜野の各支部の役員チームと兵庫県サッカー協会の理事のメンバーで、日頃は大会運営に忙しいばかりの人達が緑の芝のうえで、一日、楽しくボールを蹴って親睦を深め、各支部協会間の情報交換や、旧交を温めることができた。

この行事はこれからも毎年一回は開催することに決まっているが、兵庫県協会はもちろん、各支部協会もそれぞれ、事業計画が盛りだくさんで、日程の調整がつきにくいのが難点である。



少年男子結果

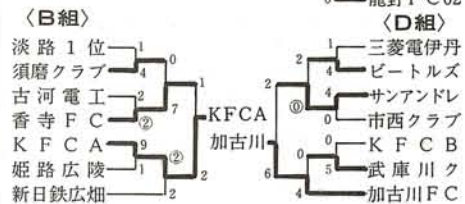
▷1回戦(26日) 兵庫 3 (0-1) 1 鹿児島
前半ははじめから兵庫のペースで進んで、逆にPKを取られて0-1、後半に入っても兵庫が8割方攻め、牧野のヘッドでの得点を皮切に2点を追加して楽勝。
▷2回戦(27日) 兵庫 1 (1-1) 2 山口
試合開始5分に、スーパードライのハンドでPKをとられ0-1となり苦しい展開となったが、徐々に兵庫が支配し喜来のシュートで同点とした。後半にはいり何度か決定的な形を作りながら決まらず、逆に残り10分右コーナーキックから決められて勝試合を失った。

ヤンマー尼崎県リーグへ昇格

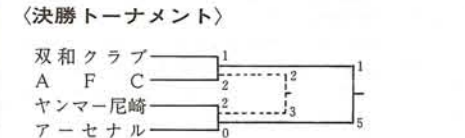
県下社会人リーグ決勝大会

昭和62年度県下社会人都市リーグ決勝大会は10月18日から12月6日まで、日触姫路、神戸総合、新日鉄夢前、姫路緑地公園の各グラウンドで、29チームが参加して行われた。途中経過と決勝トーナメントの組合わせが次のように発表された。

62年度県下社会人都市リーグ決勝大会



〈敗者復活戦〉
双和クラブ 2 - 1 香寺FC
K F C A 0 - 1 ヤンマー尼崎
A F C ①4PK11 サンアンドレ
加古川FC 1 - 2 アーセナル



三洋洲本 関西リーグへ再挑戦

第22回 関西府県リーグ決勝大会 組合せ
A グループ

月日	時間	会場	対戦チーム
12-6	12:00 14:00	紀三寺	日本写真印刷 - 海南クラブ 新庄クラブ - 大阪府警
12-13	12:00 14:00	〃	新庄クラブ - 海南クラブ 日本写真印刷 - 大阪府警
12-20	12:00 14:00	太陽丘 〃B	新庄クラブ - 日本写真印刷 大阪府警 - 海南クラブ

B グループ

月日	時間	会場	対戦チーム
12-6	12:00 14:00	神戸総合サブ	三洋洲本 - 科研製薬 北摂けまり団 - 奈良高専ク
12-13	14:00 14:00	万博	北摂けまり団 - 科研製薬 奈良高専ク - 三洋洲本
12-20	12:00 14:00	神戸中央	北摂けまり団 - 三洋洲本 奈良高専ク - 科研製薬

決勝戦
12月27日 11時 報 A 1位 - B 1位

日本サッカーに ルネサンスは起こるか? (32)

枚方FC 近江 達

シンプル信仰の弊害

優秀なものつねにシンプルだ
——クラマー

サッカーでは、よく「シンプルにいけ!」とか「もっとシンプルなプレーをすべきだった」などと言われる。

ボール扱いはシンプル、つまり、意味のない不必要なボールタッチがないのが理想だし、チームの攻撃にしても、複雑すぎたり手数をかけすぎたりすると、時機を失したり、せっかく乗りかけた流れや、リズムをぶちこわしてしまい、おおむね結果はよくない。シンプルにやる方が好結果を生む場合が多いからである。

しかし、やたら口やかましく誰彼なくシンプルを強制するのはどうだろうか。弊害もかなりあるように思う。たとえば、メノッティ(アルゼンチン)に「日本はまっすぐにしか行かない」と言われた。状況や成功率を無視して常に突撃する伝統の神風特攻隊の傾向など、せっかちな国民性やサッカー観のためだけでなく、シンプル強調から来ている部分も多分にある。

少年教育の分野になると、シンプル強制の弊害はもっとはつきりしている。

下手な選手はボールをこね回したり、必要もないのに何回もさわったりする。そうしないと肝心のプレーにかかれない。

頭脳の働きのせいで、初心者にはむろんのこと、数年サッカーをやってきた選手でさえ、周りはなかなか見えないし、的確巧妙な即断速決など、そう簡単にできるものではないので、どうしても迷いや無駄があったり、回りくどかったり、間違ったり、能率の悪い選択や判断行動になり勝ちである。

指導者や先輩達はそのたびにイライラし腹立、チームとしての攻守もそれだけモタつくので「ボールをもつな」と叫ぶ。激しい指導者になると「止めるなノノノノノ」とエスカレートしてしまっ、まだズブの素人のうちから顔を上げ放しでパスだけに専念させる。

「シンプルこそ最良」はそんなとき、うってつけの金科玉条であり、「ゴールからゴールへ、これがサッカーだ」という警句など、さしずめ錦の御旗であろう。でも、それは戦法としては確かに正しくても、まだ年少のレベルの低い選手に対する教育としては良くない。

実戦的能力は自ら学べ

実戦的能力獲得には、自由な試行錯誤と
長期間の独学体験が必要

子供や未熟な選手が必要以上にボールタッチが多く、プレーやコースの決断や選択が遅く悪いのは当然の現象で、誰だって一人前になるには、大なり小なり、そうした稚拙な時代を通過しなくてはならない。でも、それは、

その時点でのチームにとってはマイナスにちがいない。選手個人の成長のためには決して悪いことばかりではない。

それどころか、実は、将来、臨機応変の対応力充分で独創性豊かな選手になるには、絶対必要な体験なのである。だから、少々まどろっこしくても、あまり口うるさく急がせたり、無理やりシンプルプレーに直したりしない方がよい。

というのは、そうしてプレーしていくうちに、よほどの欠陥選手でない限り、体験と試行錯誤によって自然に技術が上達し、センスや戦術眼が芽生え磨かれてゆくからである。

もっとも、単なる上達ということだけならどんな教育でも必ずみられるし、パター的なことなら、むしろ教えこむ方が、選手に自由にさせて独学自修させるよりも上達は速い。だがそれでも、あえて「矯正を急ぐな! 車に乗せないで、自分で走って行かせろ!」と主張する理由は、身につく技能の内容、特性、将来性の違いにある。

周りからあまりやかましく言わないで、自分から進んで、じっくり年月をかけ、苦勞して身体で覚えて身につけた技能の方が、教えこまれ、やらされて得た教育奥の強いものよりも、はるかに実戦的・総合的、かつ、個性豊かであり、そのため、大人になったときに非常に強い力を発揮できるからである。

わが国では教育万能と信じられているけれども、必ずしもそうではない。独学体得の方が有効な場合だって少なくない。

その辺の機微を知らないで、ひたすら教えこむものだから、日本選手は小さい頃強くて、大人になると案外伸びない。それに対して、外人は小さい頃ほど自由にさせるので弱い。その代り、大人になると強くなる。

シンプルは、

戦法よりも到達目標

17年前、従来の日本サッカーとその教育に疑問をもって私は、少年サッカーのコーチを始めて、旧来のものはすべて白紙に戻して、ゼロからやってみよう。スタートに学習的なサッカーでなく、私が小学生時代大好きで毎日夢中になったボールをもつサッカーがいい。南米の草サッカーのようにやれば、子供たちも彼らのように将来相当巧になれるかもしれない、と考えて育ててきた。

といっても「抜いてみる! 一人くらい抜けるようになれ! 持ったら取られるな!」とは言ったけれども、それ以上ドリブルを強制したことはなく、パスを禁止したわけでもない。実戦的練習やミニゲームなどを多用し、その中でも、本当の試合でも、子供たちがしつこくボールをもっても叱らないで自由にさせただけのことであった。

その期間はずいぶん長く、高校生になっても続けた。パスについては、ボールを持つか

この連載は、雑誌サッカー・ジャーナルに連載されている枚方FCの指導者・近江達氏の随想をサッカー・ジャーナルのご好意で連載しております。
「日本サッカーの発展のためにはルネサンスにも匹敵する人間性の解放が必要であると、近江氏はいうが……」



▶第17回サラフェスティバルより

持たないかは、選手自身の判断次第だから、自分で頭を働かせ創意工夫してプレーすることが大切で、その中で効果的なボールの離し方を徐々に覚えていくのがよい。もちろん、パスも教えるけれども、決して無理強いはいしない。そうすれば相当レベルの高い選手に育つことがわかった。

「シンプルに!」という言葉はほとんど口にしたことがない。うるさく注意しなくても、少年たちは結構巧くなり、サッカーがわかってくる。戦術眼がで、ある程度以上のレベルになってくると、自然に熟達洗練されてだんだんシンプルにプレーするようになってくるのである。

少年たちにとって、シンプルプレーは、戦法として教えこまれたり強制されてやるのではなくて、熟達の結果であるべきで、それを到達目標として進むのがよいと思う。そうすれば弊害も起らずにすむ。むろん選手のレベルや年齢にもよる。「人を見て法を説け」で、年少でも、ほかはすでに一人前とか、高いレベルに達している選手やチームに対しては、勝つ手段戦法としてもシンプルを要求すべきである。その場合はもはや大した弊害はないだろう。

なぜ、シンプルは熟達の結果であるべきなのか、もう一つ理由をあげておこう。シンプルが良いといっても、文字どおり、「何でもパッパッと簡単にやりさえすればいいのだ」と受けとるのは、あまりにも単純すぎると言うものである。

というのは、どんなスポーツでもそうだがとくにサッカーでは、先般、ベルリン・オリンピック以来長い間代表選手だった堀江氏も書いておられるように、同時に二つ、三つのことができないと良い選手にはなれない、からである。

「シンプルこそ最良」も真理なら、これもまた真正正銘の真理なのである。

一つづー

モンブランの
メインテーマ

“スピードサッカー”

基本のプレーを徹底的に追求し、機能性を第一に考えたサッカーシューズ

markam® & Libe/o®

親しまれるサッカーウェア **younger®**

株式会社 **モンブラン**
リベロメイン06
標準小売価格¥9,800